



事故って毛虫だからねえ

園長 山中 文

そろそろ毛虫が多くなる季節です。犬を散歩させていたら、スカートに毛虫がついて、飛び上がったことでした。子どもたちも、ついうっかり触りたくなるものです。気をつけてあげてください。

毛虫といえば思い出すことがあります。

子どもが2歳の頃、庭で遊ばせていたら、毛虫を見つけました。「触っちゃだめだよ、痛いよ」と言ったところ、しばらく不思議そうに観察していました。そのあと、車で買い物に行った時のことです。途中で、交通事故で腕をけがした人が応急処置をしてもらっているところに出会いました。「事故だね。かわいそうに」と言うと、子どもがしみじみと「事故って毛虫だからねえ」と言ったのです。おそらく、事故でけがをすると痛い→痛いのは毛虫、と連想していったことかと思います。

そういう風に結びつけるのだなあと感じ（？）したことでしたが、このような連想は、次のような3歳の事例にもありました。

ある幼稚園で飼っていたザリガニのはさみが片方無くなっていた時に、ある3歳児が「はさみが無いねえ」と言うと、別の3歳児が「きっとはさみ飛んでいっちゃったんだよ」「はさみが飛んでいくと、もっと強いパワーが出るんだ」と答えたのだそうです。

その子は、ザリガニの様子をなにかのアニメのワンシーンなどと重ねたのでしょうか。この事例には、この頃について「目の前で起こっている出来事がどこか一部分でも自分の経験と重なれば、瞬時に経験と結びつけ自分なりの納得に至る」という解説がついていました。

このような大人にとって思いがけない結びつけは、3歳児でよく耳にすることだと思います。何と結びつけたのかなと考えることは周囲の大人を楽しませてくれますが、この時期の直感的な結びつけは、その後さまざまな経験と目の前の事実を丁寧に結びつけていくような支援の中で変わっていき、「科学する心」がめばえてくるといいます。大事にしたい1コマでもありますね。

*ザリガニの事例や「科学する心」については、以下をごらんください。

2019年度のソニー幼児教育支援プログラム最優秀園に選ばれた福島大学附属幼稚園の論文に出てきます。

https://www.sony-ef.or.jp/program/result_preschool.html

